

## 『あのころはフリードリヒがいた』

H12生

この本はドイツ人の少年〈ぼく〉の視点から、ユダヤ人の少年フリードリヒの一生を描いたものである。フリードリヒは〈ぼく〉と同じアパートにすむ、同じ年のユダヤ人の少年で、1925年に生まれ、1942年に哀れな死を迎える。フリードリヒは、いわゆる「ユダヤ人迫害」の中で、両親を奪われ、家を奪われ、人を信じる心すら奪われて、精神を衰弱させながら息絶えていく。

1942年。空襲の夜、フリードリヒは〈ぼく〉たち家族のいる共同の防空待避所に、恐れおののきながら飛び込んでくる。防空委員の男は「ユダヤ人」という理由で、フリードリヒを追い出そうとする。防空壕の中にいた曹長はこれに驚いて言う。「だから、どうしたって言うんだ？たとえ、疥癬にかかった犬みたいなやつだって、爆撃の終わるまで入れてやるものだ！」防空壕の中のほかの人も皆、一咸に加勢した。「そうだとも、入れておいてやればいいじゃないか！」あちこちから、声がかかった。

それに対して防空委員の男は言う。「ええ？いったいどういうつもりなんです。私の職務に何で嘴を入れるんですかね！？ここでの防空委員は、あんたかい、それともこの私かい！？ここでは私の指図に従ってもらおう。でなきゃ、あんたを告発するよ。」

曹長は、決心しかねて、フリードリヒをじっと見つめた。みんなも口をつぐんだ。

そしてフリードリヒはものも言わず、射撃と爆撃の中に立ち去っていく……

もしあそこにいるなら、フリードリヒを助けてあげることができたでしょうか？

きっと助けてあげることができなかったらう。そしてふと思った、「これは本の中の話だけではないのだ！」現代、自分たちの周りには依然として様々な差別がある。それに対して、自分はこれからどういう態度をとっていくのか。自分は「防空壕の中の無力な人々」や「防空委員の男」のような態度をとり続けるのか。これに気付いたとき、絶望的な気分になった。

この本に描かれている本質的な問題は、半世紀前のドイツと現代の日本とで何ら変わりがない気がする。自分たち人間は、性懲りもなくまた新たな『フリードリヒ』を生み出し続けている。それでいいのか？自分たち人間は、そこまで無力なのか？この本を読んでいるいろいろと考えずにいらなかった。

自分の中では、今のところ何も解決されていない。だからこの本を多くの人によんでもらいたいと思う。この本が多くの人に目につけることがこの問題を解決する糸口になってくれるような気がする。



作：ハンス＝ペーター＝ティヒター  
訳：上田真由子  
出版：岩波少年文庫

## 読者からの声

H10生 古澤英生

飛翔の愛読者として借越ながら読者からの声を書かせていただきます。飛翔を読んでも思うこと。それは、学部広報誌として、しょうがないことなのかもしれませんが、記事(特集)に関して、学生側(編集委員)の(批判的)意見が少なくな気がします。58号のプログラム制に関しては、実際にコース制を受けていた学生が、プログラム制をどう思うか、というような意見があっても良かったのではないのでしょうか。学生主体で作成しているのなら、もっと批判的な意見もあっていいと、思うのですが。教官・事務員などの学部関係者はどう思いますか？それによって、飛翔が、学生と学部の情報交換の場になれば、良いと思うのですが。インターンシップの記事も、事務の方の情報も大事でしょうが、参加した学生側の生体験談のほうが、これからインターンシップに参加しようと考えている学生にとっては、より良い情報ではないのでしょうか。(ただ、飛翔というものが、学部の広報誌という枠がある以上、何も知らない私がこんなことを言うのもどうかと思うのですが)もし、これから改善できるのなら、やってもえれば、と思います。

もう一つ、飛翔に要望したいことがあります。それは、学部と学生の掛け橋になって欲しいということです。学部の情報というのは学生にはなかなか下りてこないのが現実ではないのでしょうか。57号の特集で、環境デーでの学部のゴミ拾いのことが取り上げられていたと思いますが、そのことを知ったのは飛翔を見てからでした。学部が何をやるのかということが、学生には伝わりにくい現実の一つだと思います。その点、飛翔には、そういった情報が他の学生に比

べれば、得やすいはずですが。また、この場を借りて言わせてもらいますが、学部側も学生にはある程度の情報を知らせるべきではないでしょうか。今回、後援会を設けたみたいですが、学生になんの連絡もなく、実家の方に一万円の振込用紙を送るというのは間違いではないのでしょうか？うちの親にどういったことなのか、と聞かれましたが、実際何も知らない私はどのような用件なのかもわからずじまいでした。後援会ができますということを、学生に説明があっても良かったのではないかと思います。実際に後援会が設立されたことを知っている学生も少ないのでは、と思います。今回の飛翔の記事に後援会の設置理由と後援会費は何のために使うのかを取り上げてもらえれば、幸いです。学部の広報誌として、学生に知らせる義務もあると思います。(ちゃんとした説明があれば、後援会の設置は良いとは思いますが。)

あと、最近の飛翔には、学部生の参加を訴えているものを見かけます。学生主体で作るのですから、当然のことと思います。しかし、飛翔側から頼んでいかないと、学生側から意見を持っていくというのは厳しいと思うのですが。編集委員をのぞけば、やはり飛翔というのは、閉ざされた空間なのではないのでしょうか。しかし、私たち、読者も何らかの意見を発する場として、利用することも必要なのかもしれません。最後に飛翔にもホームページを作りませんか？そうすれば、読者層も広がるかもしれませんよ。これからも、飛翔ができるのを楽しみにしています。

# 卒業論文題目紹介

## 外国語コース

氏名	特別研究論文題目	指導教官
朽網 泰匡	Different Stories on a Small Stage The Case of the Titanic (限定された舞台での異なるストーリー タイタニックの悲劇の場合)	ゴールズベリ
近藤久美子	対外中国語教育のカリキュラムについて	小川 泰生
近藤 真歩	Second Language Learning in the Early School Years (早期外国語学習論考)	西田 正秀
梅原 新	A Study of Computer Assisted Translation Software (翻訳ソフトの研究)	谷本 秀康
木下 徳子	アメリカ社会における中国系アメリカ人組織の役割	盧 濤
小林 直樹	Uncle Tom's Cabin: A History of Acceptance (アンクル・トムの小屋: 受容の歴史)	伊藤 詔子
田中 真紀	成句における動物の象徴性の日独比較	岡崎 忠弘
外山由起江	The Effects of Unknown Words on Reading Comprehension of English Text: The Case of Japanese University Students (未知語が英文の読解に及ぼす影響 - 日本人大学生の場合 -)	山田 純
吉野 妙子	A Contrastive Study of Clauses in English and Spanish (英語とスペイン語における節の対照研究)	岩倉 國浩
柴 裕介	The Differences of Interpreting English into Japanese, and Vice Versa (英語と日本語の通訳の困難さ)	谷本 秀康

## 自然環境研究コース

氏名	特別研究論文題目	指導教官
野田 忠幸	病原体の毒性と伝播昆虫におけるそのロード分布についての数理的解析	富樫 一巳
足立 千枝	凍結法を用いたため堆積物における堆積残留磁化獲得機構についての研究	佐藤 高晴
井上加代子	瀬戸内海沿岸における環境ホルモンとしての有機スズ化合物濃度の測定	藤原 謙多夫
内海 大和	島根県匹見峡における岩石節理の解析	於保 幸正
小川 稔	画像解析を用いたアカマツ地下部の成長量の測定	堀越 孝雄
景山 有美	管理形態の異なる半自然草地における草原性チヨウ相の比較	林 七雄
加藤 知訓	太田川河川敷における景観生態学的研究	根平 邦人
上条 飛鳥	VA菌根菌の感染率および根内バイオマスに与えるリンの影響	堀越 孝雄
亀井 幹夫	国指定天然記念物(植物)の指定基準の変遷	中越 信和
嘉本 学	事務系企業活動における総合的環境パフォーマンス評価に関する研究	早瀬 光司
工藤久美子	宮島の景観生態学的研究	根平 邦人
桑田 志保	1999年広島県における集中豪雨に伴う土砂移動の特徴とその発生メカニズム	海堀 正博
佐々木晶子	河川氾濫原におけるヤナギの菌根形成について	海堀 正博
白鳥 法子	微細藻類の亜酸化窒素生成能について	設楽 惣助
高木 哲也	山中谷川周辺土壌の侵食・堆積調査と護岸工法の検討	海堀 正博
竹岡 宏美	植物起源の多糖類がVA菌根菌の生長に与える影響について	櫻井 直樹
出口 実歩	黒瀬川流域における環境ホルモンの動態に関する研究	櫻井 直樹
中島 悦子	広島県における外因性内分泌攪乱化学物質の動態	佐久川 弘
長濱 則夫	電気探査を用いた広島県花崗岩山地における地下水涵養過程の解明に関する研究	小野寺真一
橋本 典親	大気および大気液中の過酸化物の動態とそれを決定する諸要因に関する研究	早瀬 光司
平野 稔	キヨロショウジョウバエを用いた超低周波電磁波による突然変異性の検出	日下部眞一
藤崎知恵子	瀬戸内地方山火事跡地帯における養分流出過程と土壌劣化について	小野寺真一
松永 孝治	マツ材線虫病における多回感染と病原性についての実験的研究	富樫 一巳
村本 英恵	炭素循環モデルによる人工林施業の違いが炭素蓄積量に及ぼす影響評価	中根 周歩
山口 孝一	キヨロショウジョウバエを用いた超低周波電磁場の遺伝毒性に関する研究	日下部眞一
山崎 一則	AFLPを用いたイヌシテ个体群の遺伝学的研究	中越 信和
山村 一夫	天然水中のスーパーオキシド陰イオンの測定及び定量に関する研究	藤原 謙多夫
湯原 孝恵	広島県極楽寺山における気象要素および流跡線の解析	佐久川 弘
嘉川 博之	東アジアの気候帯の異なる土壌の水分特性に関する考察	開發 一郎
臨田 太	ミニリゾトロンによるアカマツ細根の成長量評価	中根 周歩

## 社会科学コース

氏名	特別研究論文題目	指導教官
池野田幸一	「地域づくりにおける農業生産法人 - 東広島市志和町内地区を事例として -」	材木 和雄
小谷 成美	企業の環境管理システムの形成と環境会計に関する研究	松岡 俊二
岩崎 愛	米ソ核軍縮合意をもたらした要因の考察 ~構造・プロセス・個人の要因からの検討~	岩田 賢司
江上 佳子	日本における犯罪被害者支援活動	石倉 康次
大屋洋一郎	現代日本社会におけるベトナムと人間の関係の今日的意義	石倉 康次
荻 隆司	「1980年代以降の日・米資産担保証券化について」	李 東碩
菅野 正之	若者たちの「居場所」	西村 雄郎
小森 克則	「スポーツを楽しむ」	西村 雄郎
佐々木寿代	岸信介の対アジア政策に関する一考察	小池 聖一
佐藤 剛史	「ヨーロッパ統合のダイナミズムに関する考察 - 「補完性原理」が果たした役割」	安野 正明
佐藤千恵美	広告管理の理論と実際について	市橋 勝
頭土井朋世	ゆめタウン東広島出店に伴う大店法問題の分析 - 大店法の運用過程の視点から -	岩田 賢司
武木田 千恵美	「中国の改革開放20年 - その成果と課題」	浜渦 哲雄
田邊 有紀	「ドメスティック・バイオレンスと日本の法制度との関連についての考察」	伊藤 護也
田畑 京子	子どもを産み育てることと社会的責任 ~福山市ファミリーサポートセンターを事例として	秋葉 節夫
土屋 夏枝	現代日本におけるイデオロギー - 高校生に対するアンケートを手がかりとして -	秋葉 節夫
戸川 純子	アジア・太平洋市場の天然ガス需給展望	浜渦 哲雄
鳥生 直美	本州四国連絡橋団体の財政問題 - 赤字財政からの脱却への取り組み -	市橋 勝
中尾 崇	日米鉄鋼通商摩擦に関する一考察	李 東碩
永見 珠美	「原子力安全神話の崩壊 - 原子力関連施設事故を通じて -」	甲斐 祥郎
西山恵美子	瀬戸内海における埋立ての規制について - 主として瀬戸内海環境保全審議会99年 答申をめぐって -	伊藤 護也
根ヶ山真哉	「日本の個人金融資産における金融ビッグバンの影響」	市橋 勝
東 優子	中国の朝鮮戦争への参戦要因の考察 - 中ソ間の駆け引きと台湾解放の視点から -	岩田 賢司
藤白 有美	日本の公的介護保険法~日独比較を通して~	甲斐 祥郎
藤原 路代	「女性問題におけるアフターマティブ・アクションに関する考察」	中坂恵美子
元吉 弘司	「日中関係における『歴史カード』の有効性」	小池 聖一
森崎 広美	「60年安保と新聞報道」~朝日・毎日・読売三大紙を中心として~	小池 聖一
山内えり子	過疎地域における高齢者の生活実態と社会的支援 - 山口県大島郡橋町のある集落を事例に -	石倉 康次
HANNY ZURINA	マレーシアのマルチメディア・スーパー・コリドー (MSC)	浜渦 哲雄
HJ HAMZAH		

## 人間文化コース

氏名	特別研究論文題目	指導教官
丹羽 岳友	「京都」の人物と現代中国社会~都市をキーワードに~	三木 直大
木内 志志	村上龍研究 - 他者とのかわりを中心として	的場いづみ
上月 道憲	「現代社会における人間の物語の描きにくさ」	高橋 憲雄
佐藤 有介	メルローボンティにおける語りと沈黙 - 「知覚の現象学」を中心に -	古東 哲明
相馬 大輔	「湾儀にみる『変身』 - 映画『ラストエンペラー』論」	青木 孝夫
十河 秀信	アモス研究	古東 哲明
田原 和貴	聖人伝の変容 - 「黄金伝説」と「きりしとほろ上人伝」にみるクリストボルス像 -	佐藤 正樹
福田 祥世	革命の芸術の残したもののロシア・アヴァンギャルド	金田 晋

藤井 啓晶 ラウル・デュフィにおける色彩と光  
 松川 祥広 「暴走族についての考察と定義、サブカルチャーとしての存在について」  
 三角 信介 「クラブ・ミュージック研究」  
 村上 未知 バルコが女性に与えたもの  
 吉田 晴子 老子研究 老子の言語に対する態度

数理情報科学コース

氏名 特別研究論文題目  
 筑瀬 孝志 マルチエージェントのカオス制御について  
 安西 毅 四元数を用いた3次元空間における曲面の変形記述法  
 伊藤 壽 Keller-Segel方程式系の自己相似球対称な正値解の存在  
 大久保幸秀 コンピュータ将棋における木探索の効率化について  
 奥野 賢二 4次元空間図形の理解のための視覚化  
 藤西 亮太 釣合型一部実施2 要因計画の分散分析の研究  
 桑井由紀美 確率論における夫婦円卓問題について  
 黒田 哲 遺伝的アルゴリズムと図形配置問題  
 園 静香 漢字特徴ベクトルを用いた誤認識の定量的評価法  
 中島 賢人 3次元空間に分布した点列の効率的な表示法に関する研究  
 備瀬 電馬 時間遅れにおける存在を考慮した神経回路網モデルにおける記憶ダイナミクス  
 三宅 堅司 フィルタリングによる画像復元とその評価  
 森崎 洋二 クリギングによる空間データの予測

生体行動科学コース

氏名 特別研究論文題目  
 坂田 朋子 謝罪広告が企業イメージ・商品イメージに及ぼす効果の研究  
 朝田 憲二 両生類の脳におけるニューロステロイド生合成経路についての研究  
 石橋 淳也 認知的構造化欲求と認知的構造化能力が、異質な他者に対する認知処理と、受容傾向に及ぼす影響  
 石本 太郎 自律複製する染色体外遺伝因子の細胞内動態に関する研究  
 磯部智加衣 内集団成員の受容-拒否過程の検討  
 糸永 和代 増幅した遺伝子を含む染色体領域の微細構造と複製タイミング制御に関する研究  
 植原 暢哉 熟慮-実行mindsetと個人特性が対人関係の選択性に及ぼす影響  
 内田 修二 サッカー選手の体力テストにおける体力評価法に関する研究  
 尾崎 郁子 音楽のリラクゼーション研究-被験者選択音楽と実験者選択音楽の比較-  
 小野田慶一 ラットにおける摂食・活動リズムの時系列解析による検討  
 河崎 千枝 タイムプレッシャー状況下における情報処理方略についての検討  
 小島 聡 ウナギの心臓の拍動調節  
 近藤 雅晃 運動の実施動機と実施条件が継続に及ぼす影響  
 佐藤好弥香 部下の行動が上司のリーダーシップ行動に及ぼす影響  
 澤田 香織 魚類にける新規RFamideペプチドの脳内局在  
 島田 典子 アプリカツメガエル変態プログラムの確立時期についての研究  
 高野 亮 “黒い羊効果”を発生させる要因の探求  
 田中 美史 ゴルフ競技におけるPositive Affect及びNegative Affectとパフォーマンスの関係  
 濱田 彩 セルフベース課題における認知情報処理  
 深瀬 修一 T7 RNAポリメラーゼとそのプロモーターを用いた大腸菌によるスギナフェレドキシン<sub>2</sub>の発現  
 廣倉 弘美 脳血管障害者の自転車駆動時における呼吸循環応答に関する研究  
 保木本 淳 乳酸消失からみたクーリングダウンに関する研究  
 本多 正典 一酸化窒素が筋小胞体の機能に及ぼす影響  
 増田亜紀子 仮眠後の睡眠慣性を低減させる効果に関する研究  
 松岡 智沙 増幅した遺伝子領域からの転写制御に関する研究  
 宮石 夏樹 異性間の親密化過程初期段階における自己開示と対人魅力の関係  
 米重 祐馬 車椅子バスケットボール実施中の体温に及ぼす脊髄損傷レベルの影響  
 渡邊 諭史 コントロール欲求が対処方略の採用とストレス反応に及ぼす影響  
 渡辺 祐晋 合意性推測の誤りが世論形成に及ぼす影響について

長田 年弘  
 武田 紀子  
 中村 裕英  
 武田 紀子  
 原 正幸

指導教官  
 中山 裕道  
 原田 耕一  
 吉田 清  
 山縣 敬一  
 山縣 敬一  
 桑田 正秀  
 島 唯史  
 山縣 敬一  
 原田 耕一  
 原田 耕一  
 奈良 重俊  
 西井 龍映  
 西井 龍映

指導教官  
 黒川 正流  
 筒井 和義  
 浦 光博  
 清水 典明  
 浦 光博  
 清水 典明  
 浦 光博  
 新畑 茂充  
 坂田 誠  
 坂田 省吾  
 岩永 誠  
 安藤 正昭  
 関矢 寛史  
 黒川 正流  
 筒井 和義  
 達之 達之  
 黒川 正流  
 関矢 寛史  
 堀 忠雄  
 山崎 岳  
 山崎 昌廣  
 小村 堯  
 和田 正信  
 林 光緒  
 清水 典明  
 坂田 桐子  
 山崎 昌廣  
 岩永 誠  
 坂田 桐子

地域文化コース

氏名 特別研究論文題目 指導教官  
 大嶺 一治 沖縄県名護市における米軍基地受け入れと地域のあり方に関する考察 浅野 敏久  
 佐々井香織 中国におけるテレビ文化の受容 水羽 信男  
 田村 憲正 「ええじゃないか」の構造に関する一考察 布川 弘  
 林田 知子 中島敦の作品における否定語の修辭的用法 柳澤 浩哉  
 古庄 縁 「英語授業におけるインターネット活用～新学習指導要領と関連させて～」 水羽 信男  
 安達 信裕 台湾植民地における「日本人」像の形成 布川 弘  
 植町 祐三 1980年代以降のチベット問題～中国の国家統合をめぐる～ 水羽 信男  
 大下 博昭 中世生活文化の研究-将棋をめぐる一 佐竹 昭  
 尾道 美幸 「皇民文学」からみた台湾におけるナショナリズム  
 一周金波の作品を素材として一 水羽 信男  
 折出 朋子 19世紀イギリスにおける公園大量造成の理由 安西 信一  
 清原 祐史 「現代中国の台湾に対する経済政策～1978年以降を中心に～」 水羽 信男  
 黒瀬 志保 1949年以後の人口動態から見た香港の特質 水羽 信男  
 黒田 紀子 アメリカにおける家電製品の普及とその影響 佐野真理子  
 塩田 千恵 日系アメリカ人の強制収容所経験の記述の分析 佐野真理子  
 園田晋一郎 ラコタ族の宗教儀式の変化とその影響 佐野真理子  
 高田 知典 危機状況における流言の機能とダイナミクス  
 ～関東大震災時の「朝鮮人暴動」流言を中心に～ 窪田 幸子  
 田中 満恵 18世紀ロンドンのクラブ 友田 卓爾  
 塚本 勝輝 北九州市における都市政策と地域構造の変化の関係 浅野 敏久  
 塚本 久美 女性雑誌から見た女性美 崔 吉城  
 月原 文子 北村透谷研究-初期作品を中心に- 櫻原 修  
 福島 聡子 「観光地」としてのバリ 高谷 紀夫  
 藤本 亜美 北タイ山地民のアイデンティティの変化 高谷 紀夫  
 山部 良太 一九八九年天安門事件-学生側の視点からみた運動論的考察- 水羽 信男  
 山本知奈美 平安期の入唐留学僧の研究 佐竹 昭

物質生命科学コース

氏名 特別研究論文題目 指導教官  
 平井 充晴 光合成光化学系II複合体の単結晶化に向けて 赤堀 興造  
 松永 茂晃 スギナフェレドキシンⅡタンパク質の発現系の構築 手島 圭三  
 小路 将徳 陽子ヘリウム3 散乱の形状独立理論による解析 松田 正典  
 加治木良郎 オリゴチオフェン膜中の電荷移動機構 山下 和男  
 金河 大 シロオビアゲハ (Papilio polytes) 蛹期における第一次気管およびトラキオールの動態と糞粉列の形成 渡邊 一雄  
 川本 保子 クアシンノイド類の構造と安定性に関する研究 岡野 正義  
 木下 美紀 ACTHによるホルモン合成の急性活性化の分子機構 小南 思郎  
 桑原比美 内分泌攪乱物質による副腎皮質ホルモン分泌の阻害作用 小南 思郎  
 玄道 美穂 ウシ副腎におけるStAR タンパク質のプロセッシングサイトの解析 山崎 正岳  
 小坂 朋大 海水ウナギの飲水調整-脳内作用物質の探索 安藤 正昭  
 高崎 智昭 層状窒化物高温超伝導体のトンネル効果による研究 浴野 稔一  
 田中 芳典 ACTH刺激した副腎細胞内のStAR mRNAの定量 山崎 岳  
 松島 智善 ナノ構造化グラファイト-水素系の物性評価と機能探索 藤井 博信  
 松永 昌宏 鳥類の脳におけるニューロステロイド合成酵素の発現-P45017a,lyase- 筒井 和義  
 水越美由紀 中国産イチイTaxus chinensisの成分研究 深宮 齊彦  
 光川 稔 PrxLa1- $\alpha$ B6の磁気相図の研究 小島 健一  
 山田 悟史 リン脂質/水/塩系における構造転移のイオン、および水濃度依存性 武田 隆義  
 山成 敏広 光合成光化学系II内環状電子移動におけるCyt b-559の役割  
 -Cyt b-559の酸化還元滴定装置の改良- 赤堀 興造

## 新任教官紹介

井鷲 裕司 (自然環境科学講座)



2000年4月に農林水産省森林総合研究所から広島大学へ赴任してきました。大学では生物の保護・保全をフィールドワークや遺伝解析で考えていきたいと思っています。東広島市で、なにより驚いているのは、自然の面白さです。大学キャンパス内にも絶滅危惧種に指定されている植物があります。更に車で西条盆地内を巡ってみれば、あるわあるわ、まさに宝庫です。週に1度はこういった自然を、長靴(湿地に面白い植物が多い)、作業服(藪ごぎにはこれが一番)、麦藁帽(インドネシアの熱帯多雨林で購入)、UVカットグラス(人相が悪いと妻には不評)といった格好で見て回るのを楽しんでいます。どうも胡

散臭い姿のようで、荒地でのごそしていると農家のおばさんにいろいろ尋ねられたりしますが、怪しい者ではありません。どうぞよろしくお願いいたします。

ゴーマン マイケル (言語文化研究講座)



私はアメリカ合衆国のウィスコンシン州の出身です。1992年に結婚し、ウィスコンシンの大学で修士課程を終えた後、1993年に神戸へ引っ越ししました(日本語は上手く話せませんが、関西弁はなんとか話せます)。1995年までそこで教鞭をとっていましたが、阪神大震災の後、アメリカ合衆国へもどり、20世紀のアメリカ文学の博士課程へ進みました。今、私はとても親バカです。というのは、妻が、私たちの初めての子供である、まこと君をつい最近出産したからです。

戸梶 亜紀彦 (マネジメント専攻)



東京で生まれ、その後、小学校3年生から大学に入学するまでを横浜で過ごし、学部・大学院は京都の同志社大学で学び、非常勤生活を大阪の高槻で過ごし、広島県立大学への赴任で広島県北部の山中にある庄原に引っ越し、そして広島市内へと、徐々に西へ移動してきました。マネジメント専攻では、社会行動データ解析を担当しています。専門は心理学で、「感情」に関する包括的な研究を行っています。東千田のキャンパスまでは、自転車通勤をしていますが、これには①運動不足を解消すること、②いつかの途中で寄り道をしてよい、という2つの理由があります。今のところ、忙しすぎて②の方はまったく果たせておりません。

原田 隆 (マネジメント専攻)



本学の総合情報処理センターから社会科学部研究科マネジメント専攻に異動した原田と申します。マネジメント専攻では情報関係の教育研究を担当しています。主要な研究テーマは分散型コンピュータシステムの基礎問題のひとつである、分散相互排除問題ですが、これまでの情報処理センターでの経験を生かし、インターネットサーバの構築運用、社会をサポートするシステムへのインターネット技術の応用などの問題にも取り組んでゆきたいと考えています。

稲垣 知宏 (情報教育研究センター)



2000年4月1日付けで広島大学総合情報処理センターから異動してきました。出身は尾道市です。宇宙初期のさまざまな現象を理解するには高いエネルギースケールでの物理を理解する必要があるのですが、その手がかりを得るための処方として、高温、高密度、曲がった時空中での臨界現象について研究しています。また、情報教育研究センター等に設置されているコンピュータの利用動態を、WWWを用いて視覚的にとらえるシステムについても研究しています。

編集後記

学生編集長 鮫島和美 (H11生)

今回の特集は、就職活動、センター(相談室)紹介、大学を創るの3本立てで構成しました。いずれも、学生の意識を高めるために企画したものです。就職の方では、早い段階からの危険意識を高めること(私も問題ですが^^;)、センター紹介では開放されている大学施設の利用をもっと知ってもらうことを目的で企画をしました。事実、就職活動ではほとんどの先輩が大変苦労されているようですし、学生の多くは情報教育センターしか頻りに利用していないようです(少なくとも私の周りでは)。大学を創るでは、大学改革の中での意識や大学での学生のあり方を考えてみました。

今号の編集にあたり、取材に応じてくださった先生方、ご迷惑をおかけしました。また、ご協力して頂きました関係各位、ご指導・ご協力ありがとうございました。そして、編集員の方々、お疲れ様です。(とくに、夜中(翌朝)まで編集作業をしてくれた編集委員の方、本当にご苦労様です。)

裏学生編集長 山崎雄平

(体操部会計、IAHUの悪役、H11生)

いやー、しかし今回の編集作業はしっかりした一年生がいてくれて助かりました。実際僕はあんまり仕事をしてませんでしたからね。やったことと言えば・・・あ、原稿依頼ぐらいしかしてねーや。就職の特集に携わってくれた皆には頭が上がりません。ホントに助かりました。ありがとうございます。ところで僕は60号の学生編集長に推されているのですが、そんなことされたら時間的、精神的に僕はもう飛翔やっいていけないかも・・・。

平編集委員 ねずみ男ことび太

(H11生)

編集長ごめんなさい。前号の誓いにも関わらず、貴方をブチ切らすことになってしまいました。深く反省しつつも、僕の仕事意欲は風まかせなのです。

もっちゃんで呼んでもらおうと思っていたのに、いつのまにかもとよって呼ばれている島田さん(H12生)

編集委員になったころは、編集室に入りにくくってしょうがなかったんですけど、足繁く通っていたら逆に居心地がよくなっちゃいました。良いんだか悪いんだか・・・(笑)

59号編集に携わった人たち

編集委員

教官	山崎 昌廣 (編集委員長)
	柴田徹太郎 武田 紀子
H10生	竹田 慶 三浦和歌子
	吉田 昭子
H11生	鮫島 和美 (学生編集長)
	山崎 雄平 大谷 貴重
	村田圭太郎 園田 陽平
H12生	井手由紀子 梶原 恵輔
	木島 静香 北岡 美紗
	清水 直子 島田 基世
	滝波 稚子 塚田さつき
	畑 優 麓 侑佳
	松岡由見子 山下 純

イラスト

H09生 森岡 ナナ

H11生 滝波 稚子

総合科学部広報委員会飛翔編集委員会

☆E-mail: hisyo@hiroshima-u.ac.jp☆

